

## 中国の経済成長と日本

### 0. 要約

“Peaceful Rise,” Economist, June 26<sup>th</sup> 2004

他国の目を気にする中国は、中国の急激な経済成長がいずれ軍事的な行動にまで及ぶことを恐れているアジアや西欧の国々と、どのようにして付き合いければよいのだろうか。共産党党員がボアオ・フォーラムで「我々に選べる道はただ rise (立ち上がる、伸びる、大きくなる) するだけだ、しかもそれは平和な(peaceful) rise だ。」と発言したのが論議の対象になっている。しかし、アメリカとの関係を中国は上手く築いていこうとしている中国にとっては、この rise 発言は好ましくない。今や中国の役人は中国の rise は何世代かに渡る長期的なものになるかもしれないと言うが、この言葉の意味を理解し、それがどう実現可能なのかを決めるのにも同じくらいの時間が掛かりそうだ。

### 1. 論点

中国の経済成長によっていずれは世界のパワーバランスが変わるとまで考えられている。そんな中国の成長の実態を検証しながら、それに対する隣国日本の企業・国家の対応を考えてみる。

### 2. 中国経済の現状

#### 2.1. 主要経済指標<sup>1</sup>

- ・人口: 12億9900万人(2004.7) 日本の約10倍強
- ・面積: 960万平方キロ 日本の約2.6倍
- ・GDP: 53兆4000億元(2003) 日本の2倍弱、世界2位  
(2001には9兆6000億元)
- ・一人当たりGDP: 5000ドル(2003) 日本の1/5弱  
(2001には911ドル)
- ・GDP成長率: 9.1%(2003)
- ・輸出: 全世界の約6%、4位(10位の香港を加えると日本を抜いて3位)(2003)
- ・輸入: 3位(9位の香港を加えるとドイツを抜いて2位)(2003)

---

<sup>1</sup> CIA- The World Fact Book- China より

## 2.2. 対日経済関係

- ・中国からの輸出はアメリカ(21.5%)、香港(18%)に次いで日本は3番目(14.9%)<sup>2</sup>
- ・同輸入は日本は1番目(18.1%)
- ・日中間の貿易収支は日本の赤字(実態は香港を含めると黒字)<sup>3</sup>
- ・日中経済関係は拡大基調に
  - 貿易: 日本企業の中国進出で企業内貿易が増加
  - 投資: WTO 加盟による投資環境整備の進展などにより拡大

## 3. 中国が抱える経済的可能性

### 3.1. 産業

- ・工業製品の国際競争力の上昇
- ・各地域ごとの特色を生かした産業による地域間分業・競争
  - 北京: R&D に特価
  - 香港: 台湾・日本企業の進出で、金型～精密・電子部品の製造
  - 重慶: 重工業

### 3.2. 労働力

- ・多数の高学歴の若い労働力あり。
- ・周辺国からの移民も含めた安価なブルーカラー労働力。
- ・「一人っ子政策」の爆弾<sup>4</sup>: 1979年からとられた「一人っ子政策」による...
  - 人口構成の歪み、男女の偏り。
  - 「小皇帝」と呼ばれる過保護で甘やかされた世代が、10年後には30代に。

### 3.3. 地域経済圏への進出

- ・WTO 加盟(2001.11) 国際経済社会の一員になろうとする動き
- ・周辺地域との FTA 推進
  - 2002年11月 ASEAN / 中国首脳会議で「包括的経済協力枠組み協定」に調印。農産品8分野「早期自由化措置(アーリーハーベスト)」により2006年1月までに関税を段階的に撤廃、ASEAN先行加盟6カ国とは2010年までにFTA締結、後発4カ国は2015年までに締結を目指す、メコン川流域開発促進についても合意。
  - 2003年6月 中国とタイで2003年10月をめどに農産物188品目の関税を撤廃することに合意。

---

<sup>2</sup> CIA- The World Fact Book- China

<sup>3</sup> 日下部&森藤 2003 p.26

<sup>4</sup> 大前 2002 p.176-178

- ・香港・マカオと『経済・貿易関係緊密化協定(CEPA)』を締結(2003.6.29)

#### 4. 今後の中国経済

- ・今までの主要な成長要素の継続: FDIの有効な導入と、輸出の拡大。
- ・自由市場の拡大
- ・最先端工業分野の拡大
- ・国際経済市場における規制緩和 WTO 確約の実現

#### 5. 日本の対応

##### 5.1. 企業

- ・国家の保護を要請
- ・国内では優位性の低下した産業を中国に移転、その分の生産要素を成長分野に振替。
- ・成功例<sup>5</sup>: 日本工場を閉鎖 中国へ進出  
中国のリースを活用 自前で固定費を抱えない低コスト経営  
中国事業のノウハウを持つパートナーの活用

##### 5.2. 国家

- ・衰退産業を守るための輸入規制
- ・地域経済圏との FTA 締結に慎重

#### 6. 私見

中国の経済成長は数字で見ても、今までの常識的な感覚では理解できない速度で伸びている。それは、やはり国土と人口の規模の大きさと、富を創出するだけの素材が整っていたところに、朱鎔基首相による改革を経て旧態から地方分権化・責任の所在の明白化・スリム化された中国に変化してきたことがきっかけとなっているのだろう。現在の中国は地域別に工業的な質の面でも競争力を上げており、FDI を呼び込めるだけの魅力的な自由市場の整備もますます拡大されてきている。中国がこの調子で伸びつづけた時の中国との付き合い方を日本は考えなくてはならなくなる。中国への資本投資が増えることによって日本の国内産業が空洞化されることが心配されているが、多く論じられているように、問題は中国が脅威となったときにそれから身を守ろうとすることではなく、その成長した中国をうまく利用しながらどう共存するかどうかだろう。日本に籠った国内産業を脅かすのは、中国に効果的に進出した日本企業なのである。中国は周辺国との経済的ネットワークを広げながら、その影響力を徐々に拡大している。そこで日本の国家にできることは、一つは国内の衰退産業を守るために輸入制限を発動するのではなく、日本企業が中国に進出した後に、本社や最先端産業が国内に残ろうというインセンティブを持つような環境を設けることで、競争力を増す中国の諸地域との競争に生き残ろうとすること。また、現在の日本の好景気は中国主導だという話もあるように、日本の経済は現在中国の経済成長に連動している。そこで、中国の経済が崩壊してしまった時を見越して、日本の国家が中国に進出してい

---

<sup>5</sup> Ibid. P.268

る日本企業のセーフティネットを構築することが求められる。そして、さらには、中国の経済成長が収束したときの中国と日本の関係を考えた外交戦略を取ることが必要になってくるだろう。

## 7. 主要参考文献

- ・ 井上和子 「活発化する中国の FTA 推進の動き」 2003.9. THE WORLD COMPASS
- ・ 海老名誠 「急速な経済発展は脅威かチャンスか」 浜田宏一 + 内閣府総合社会研究所編 『世界経済の中の中国』 2003 NTT 出版株式会社 p.191-218
- ・ 大前研一 『チャイナ・インパクト』 2002 講談社
- ・ 河合正弘 「中国経済脅威論と崩壊論を考える」 浜田宏一 + 内閣府総合社会研究所編 『世界経済の中の中国』 2003 NTT 出版株式会社 p.56-75
- ・ 日下部英紀 & 森藤択 「中国経済の現状と問題点」 p.19-29
- ・ 国吉澄夫 「進出企業の立場からみた摩擦点」 p.158-169
- ・ 堺屋太一 「中国は期待か脅威か」 p.33-55
- ・ 関志雄 「中国の経済発展は日本にプラス 空洞化なき高度化政策のすすめ」 p.96-110
- ・ 浜田宏一 「WTO 加盟で世界経済システムはどう変化する？」 p.138-157
- ・ Medeiros, Evan S. and Fravel, M.Taylor, "China's New Diplomacy," November/December 2003, Foreign Affairs
- ・ Hoge, Jr., James F., "A Global Power Shift in the Making," July/August 2004, Foreign Affairs
- ・ CIA- The World Fact Book- China, <http://www.cia.gov/cia/publications/factbook/geos/ch.html>
- ・ JETRO 中国情報頁 HP <http://www3.jetro.go.jp/tppoas/collection/china/>
- ・ 経済産業省 HP
- ・ FOREIGN AFFAIRS JAPAN, <http://www.foreignaffairsj.co.jp>